



フィリピン

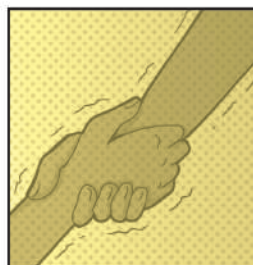
プロジェクトヒストリー「漫画版」

屋根もない、家もない、 でも、希望を胸に

フィリピン巨大台風ヨランダからの復興



ROOFLESS
HOMELESS
BUT NOT
HOPELESS



2013年11月8日、100年に一度といわれた超大型台風が上陸した日
フィリピンの首都マニラは「穏やかな晴天」だった

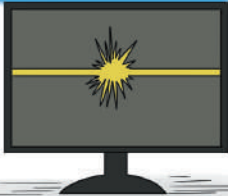
JICA
フィリピン事務所

けんみや みさ
見宮美早

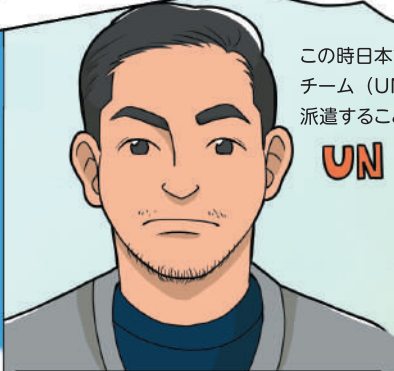
セミナー実施中

But...

午後になると風が強まり
セミナーは念のため
早めに終了させた



首都マニラと台風が上陸した
サマル島・レイテ島との
間の情報網は遮断された



勝部司

JICA本部からUNDAC※2に加わった
国際緊急援助隊事務局

この時日本では、国連の災害評価調整
チーム（UNDAC）にJICA職員1名を
派遣することが決定された

UN OCHA※1は



UNDAC
をマニラに集結

PAGASA※3は

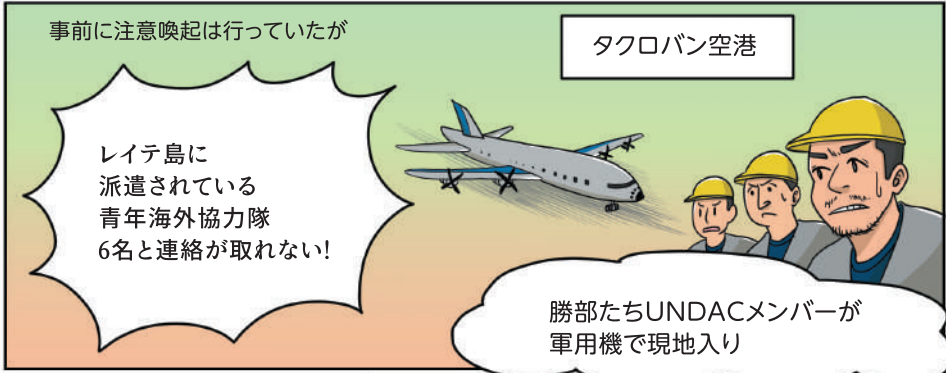
11月8日朝4時40分に台風
サマル島のギアン町に上陸したと発表

ヨランダが

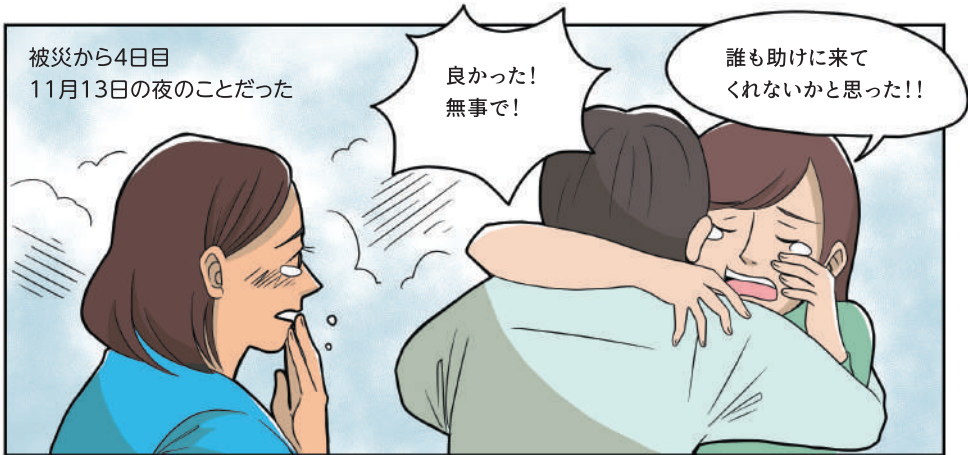
※1 UNOCHA…自然災害の場で人道援助の調整を担う国際連合人道問題調整事務所

※2 UNDAC…国際連合災害評価調整チーム

※3 PAGASA…フィリピン大気地球物理天文局



連絡が取れなくなっていた青年海外協力隊全員の無事が確認できたのは





一方日本では…

JICA本部において
国際緊急援助隊派遣の
調整が進み



医療チームは
チャーター便で
成田を後にした

人口
20万人以上

が暮らす州都
タクロバン市を含む

超大型台風「ヨランダ」が上陸した

レイテ島とサマル島

レイテ州の
主な産業

林業

農業

漁業

東ビサヤ地方

全国で第3位の
ココナッツ
生産地

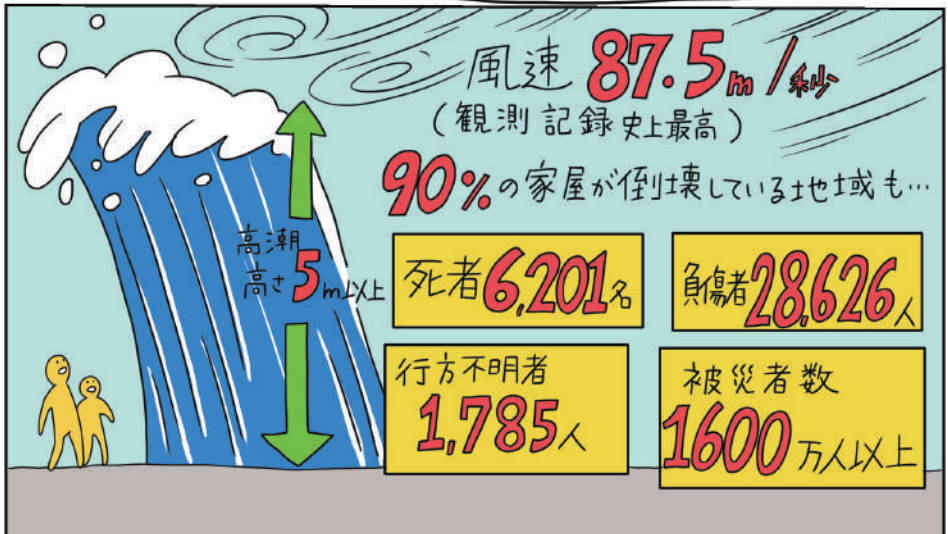
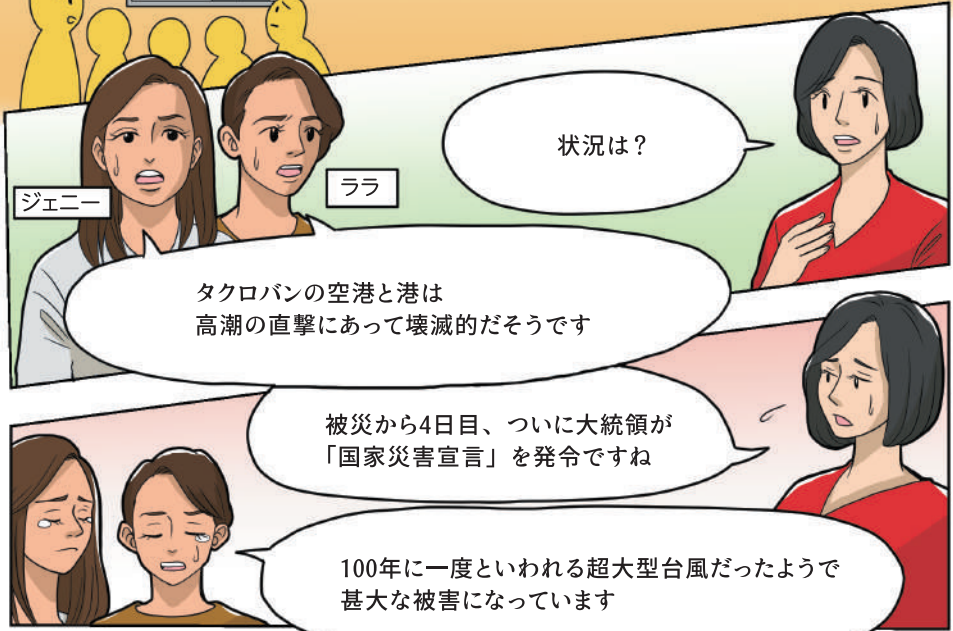
タクロバン市

首都マニラやセブ市と
つながる空港がある

漁業分野

魚類生産の総量が
国の生産 **5%** を
占めた
地域経済の
4.2% を占めた

フィリピン軍などが被災地入りできたのは発生の翌日だが、次第に事態の深刻さが首都マニラにも伝わってきていた



中でもサマール州とレイテ州東部の沿岸地域の被害は深刻です…



高潮によりタクロバン市付近は特にひどい状態です

強風で屋根が飛び、高潮で、木やブロックでできた一般住宅はもちろん、鉄筋コンクリートの建物も破壊された

ココナッツの木は3,400万本も倒された



ということは…ココナッツ産業に関わっている170万人もの人が…



はい、地域の産業の壊滅的な被害を意味しています



漁業従事者は？



5万人近い人々が被害を受けています



商工業関連施設や店舗、この地域のライフラインはズタズタだった…

台風の翌日9日に現地入りした
UNDACチームの勝部は多くの遺体を目にして絶句した
そして暑さ、臭い、濁きとの闘いの日々…



勝部がマニラに戻った18日

JICA事務所



勝部さん…
大変でしたね

今回の被災地ほど
厳しい現場はないね

この10日間は本当命がけだったよ
軍用機で到着したタクロバン空港で
メンバー全員分の水と食料が盗まれて
屋根も壁もない空港で、被災地での現実と
絶望感を味わった

被災地での活動で
日焼けした勝部さん

でも、とても大事な気づきも
被災者を支援しなきゃと思っていたけど
逆に僕たちが被災者に元気づけられて
特に支援物資の輸送路の確保では
地元の人々に助けられたんだ

被災地では立場に関係なく
そこにいる全員が何とかしたい、復興したいという
気持ちで取り組むべきなんだということを
身をもって学んだよ



緊急支援にあたって
JICAはフィリピンで活動する
各分野の日本人専門家を総動員した



フィリピンの主要官庁には長年にわたり
道路・橋梁、港湾、空港、保健医療
などの分野を担う専門家が
派遣されていた



専門家がフィリピン政府のスタッフと
各分野の被災状況の確認や復旧計画の
検討に取り組み、大災害の全容と必要な
支援の把握が進んだ



緊急支援において、最も重要なことは何か？

とにかく現地に
人と物を
迅速かつ**安全**に送ること！

支援者は自分たちの
活動に必要なものを
自分たちで
持って行くのが鉄則



物資の確保と並行して日本からの
医療チームが到着
直ぐにでも現場に行きたかった
しかし…



交通手段は限られ、
支援物資が奪われてしまうような
ニュースもあり
被災地に入るのも一苦労だった

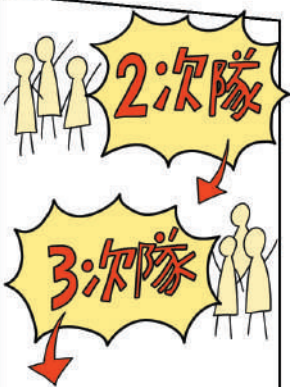


支援を必要とする人たちがいて
支援ができる自分たちがいるのに
現場にいけないのは
とてももどかしいことだった

そして、ようやく現地に到着
すぐに医療活動を開始

医療施設は損傷が激しかったので
市内中心部の公園を活動拠点とした

医療現場では日本人とともに
JICA事務所スタッフ、通訳、
運転手など
フィリピン人も大活躍



医療支援が続く中
周辺の村への
巡回診療も行った

被災者の心の
問題にも対応した



同僚からも
『ぜひ東日本大震災の恩返しを
してきてくれ』と託され
自分もその思いで
来ました

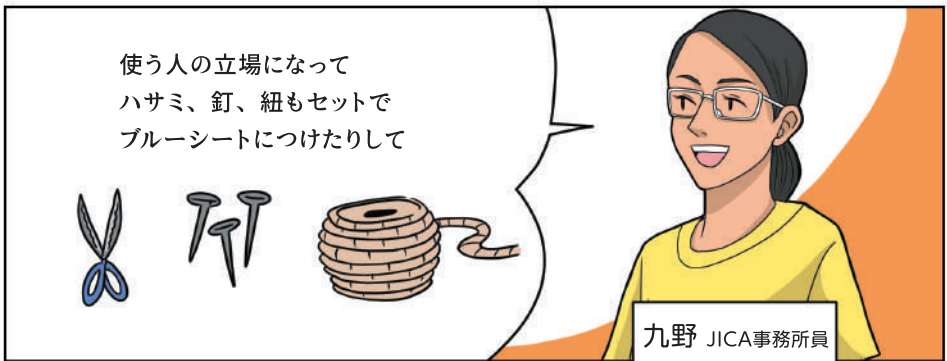
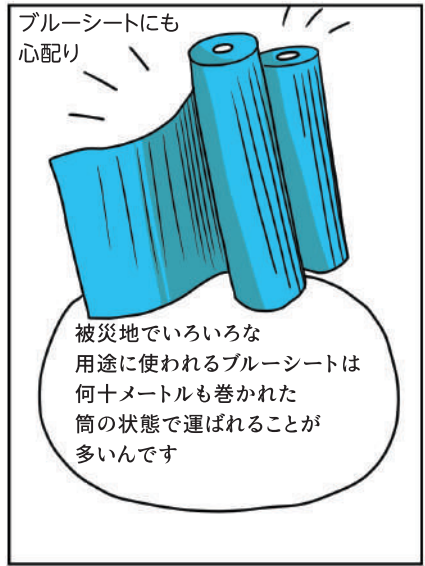
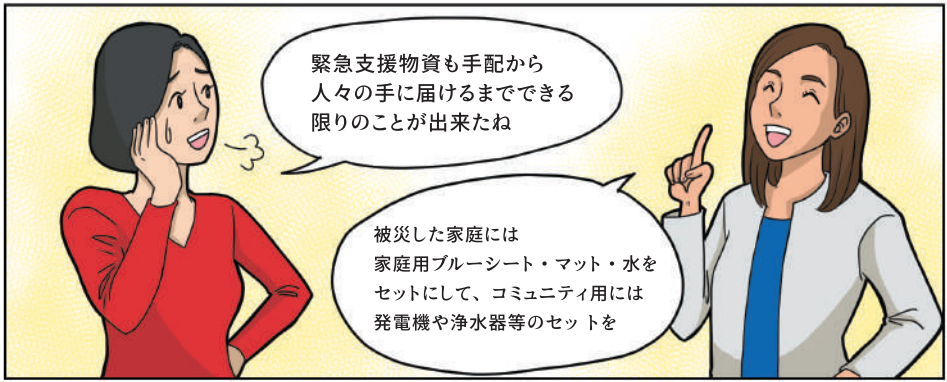
医療チームは
三次隊引上げまでの

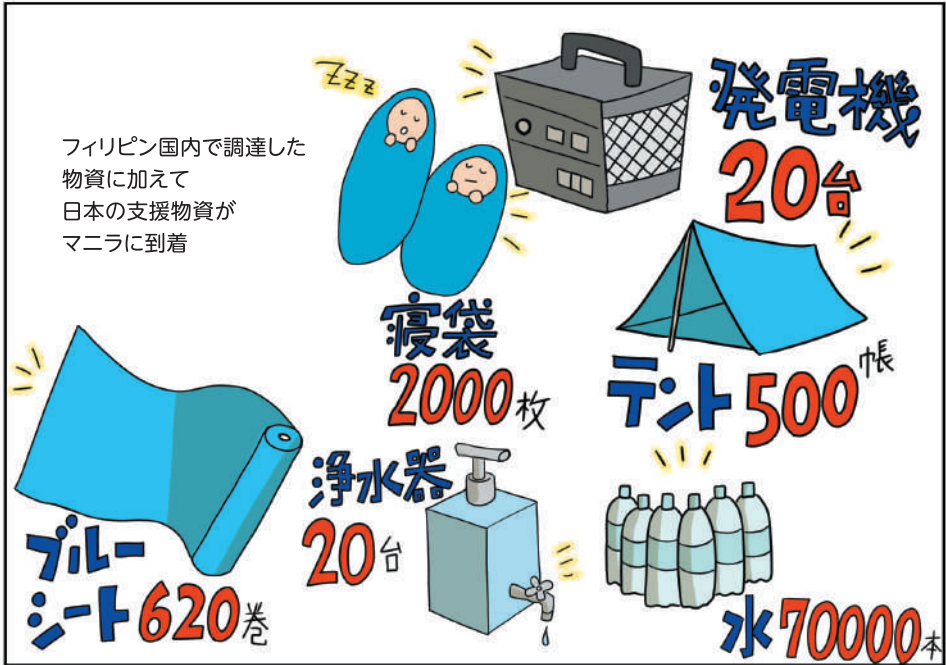
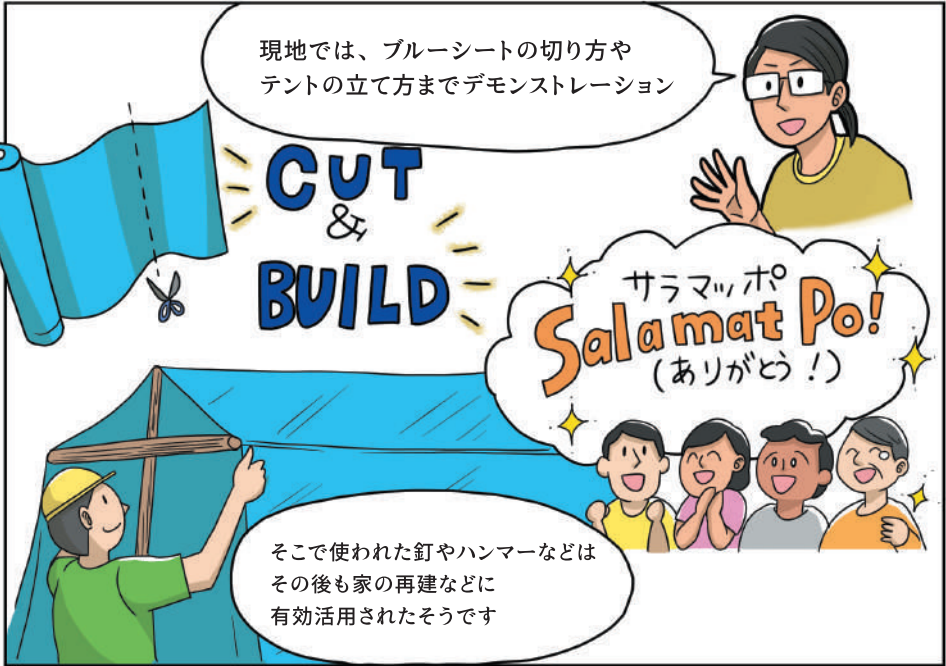
32日間
の派遣で

3,297名 診療した



山内聡医師
東北大学病院勤務





日本政府は被災地の施設の再建や必要な物資の調達を支援するために
46億円の無償資金協力^{※5}を実施する方針を固めた

さらに

台風ヨランダ災害緊急復旧復興支援プロジェクト

1 マップを用いた復旧復興計画の策定支援

2 無償資金協力事業で実施
する事業の選定および設計


3 地域の早期復旧復興
寄与するクック・インパ
プロジェクト(QIPS)の計画・実施

見宮は12月半ばに現地に入り、
やっと自分の目で現場を確認することができた
被災地の人々はたくましく
むしろ励まされる思いがした

そして、被災した学校の教室、
黒板に書かれていた文字が忘れられない




ニーズ調査チーム



ROOFLESS
HOMELESS
BUT NOT
HOPELESS

屋根もない、家もない、でも希望はある

実際の写真

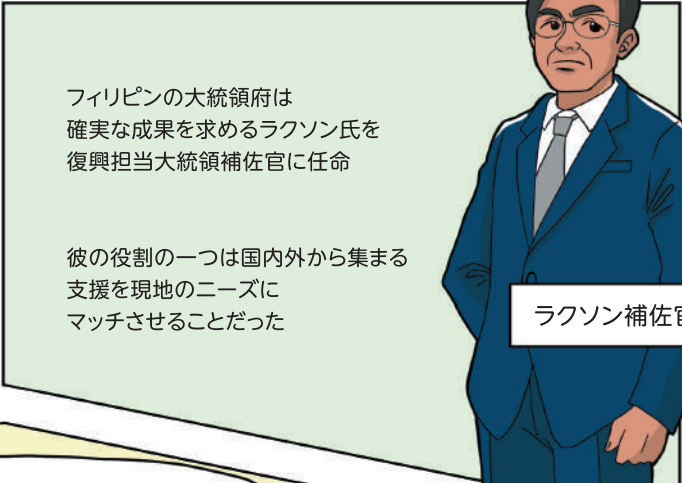


ROOFLESS
HOMELESS
BUT NOT
HOPELESS

※5 無償資金協力…開発途上国に資金を贈与し、開発途上国が経済社会開発のために必要な施設を整備したり、資機材を調達したりすることを支援する形態の資金協力です



ヨランダの上陸から
約1カ月後の
12月6日

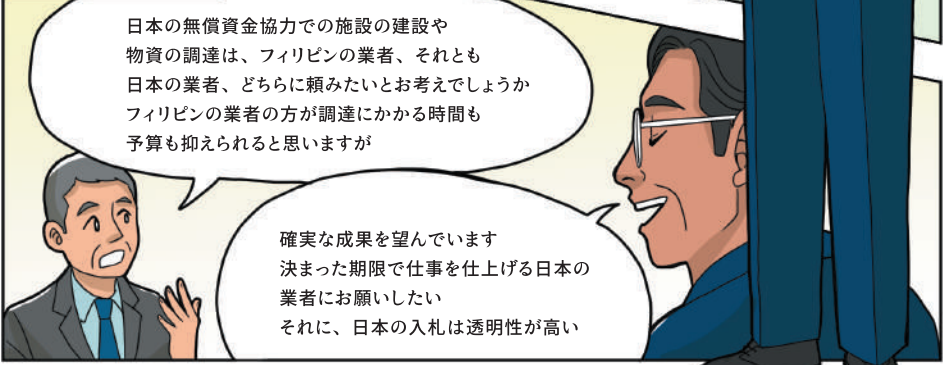


ラクソン補佐官

フィリピンの大統領府は
確実な成果を求めるラクソン氏を
復興担当大統領補佐官に任命

彼の役割の一つは国内外から集まる
支援を現地のニーズに
マッチさせることだった

補佐官室にて



日本の無償資金協力での施設の建設や
物資の調達、フィリピンの業者、それとも
日本の業者、どちらに頼みたいとお考えですか
フィリピンの業者の方が調達にかかる時間も
予算も抑えられると思いますが

確実な成果を望んでいます
決まった期限内で仕事を仕上げる日本の
業者にお願いしたい
それに、日本の入札は透明性が高い



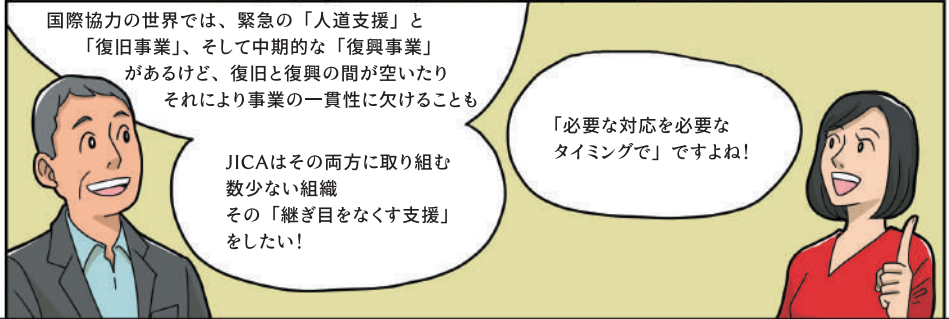
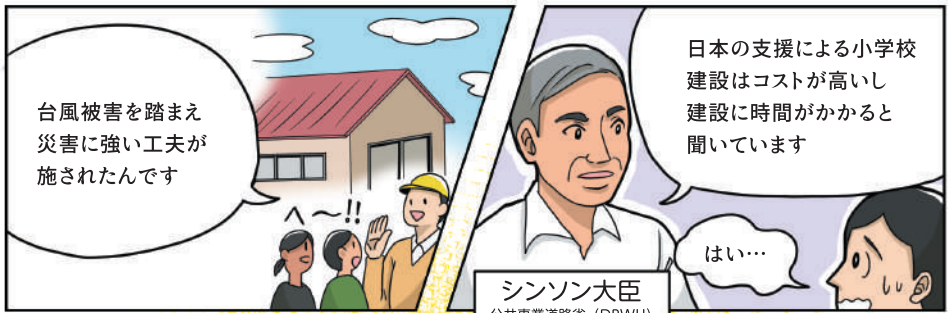
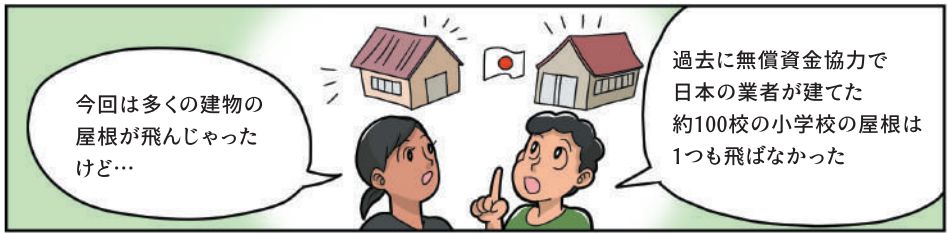
フィリピンの業者を
選ばれると思って
いました!

ホッ



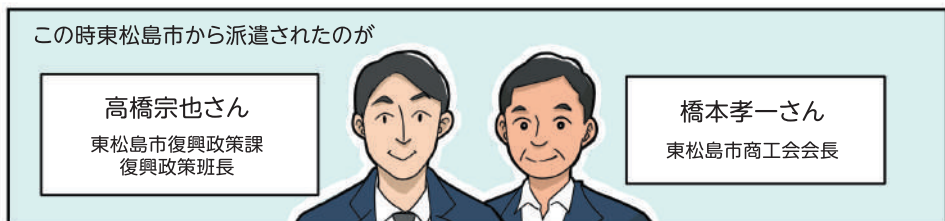
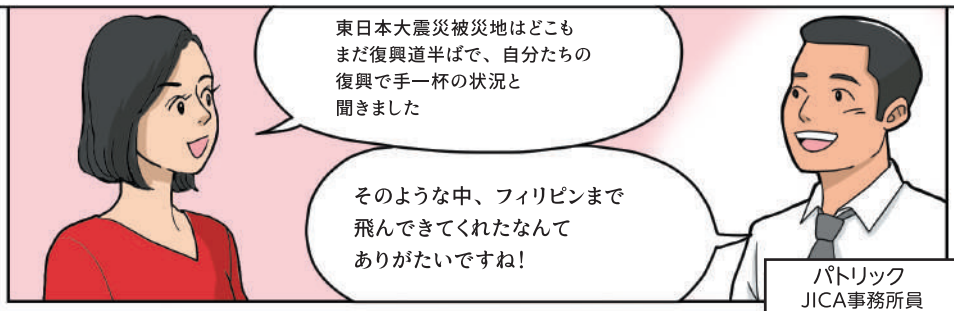
ニコ

補佐官らしい、納得のいく
明確なメッセージだった



後に日本が行った支援については
緊急援助から復旧・復興支援へのシームレスな(継ぎ目のない)支援と
評価されることになった

『継ぎ目をなくす支援』の1つ ～東松島をフィリピンへつなぐ～



2014年1月



2014年2月2日

台風ヨランダ緊急復旧・復興プロジェクト



JICAから事業を委託されたプロジェクトチーム

!!タクロバシホ
GO!!

いよいよ被災地での
復旧・復興活動が

START!

プロジェクト対象地域はレイテ島
サマール島沿岸の20市町に及んだ



関係省庁や、財務省担当官たちと
プロジェクトチーム、JICAの地道な
情報交換や調整が続いた

無償資金協力

PROJECT 1

国立航海技術訓練センター

実施された案件を
少し紹介します



フィリピンは世界有数の船員供給国

訓練機材の供与



技術レベルの高い
船員の育成は重要だ
このセンターの再建を
優先すべきだ!



水産試験 機材の供与

PROJECT 2 水産試験場

サマル島では、水産業がほぼ唯一の比較優位産業
この地域の水産業の活性化には、ギアン水産試験場がカギだった



中長期的な現地の産業復興を
見据えたJICAならではの提案!



PROJECT 3 小学校・保健所 庁舎

公共建物

の再建
に対する

庁舎

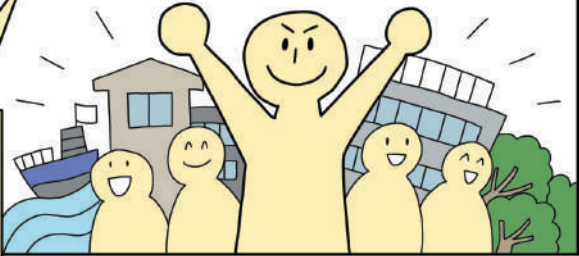
強靱な社会の実現のために
台風に対する十分な強度がある
公共建物の建設

協力力

ただ単に失われたものを
直す・戻すのではなく
『以前よりもっと良い形』で
復興させる



BUILD BACK BETTER より良い復興



すべての
復興プロジェクトの
テーマとして掲げられた

台風ヨランダ
緊急復旧・復興
プロジェクトの目玉

QIPS

クイック・
インパクト・
プロジェクト

重要ポイント

『素早くインパクトが発現するプロジェクト』

地域の特性や資源を最大限に活用し、中長期的に
人々の生活の安定につながる、生計回復を中心にすえた
2つを紹介しよう

QIPS1

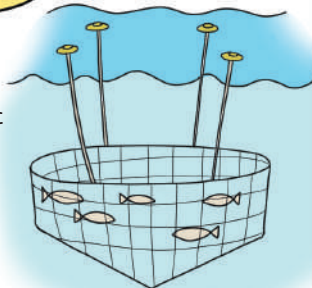
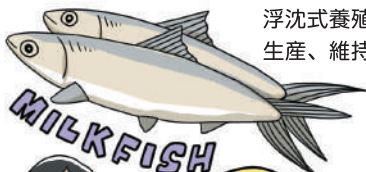
台風に強い
養殖いけすをつくる

at
バセイ町

22件^{選定}

地域屈指のミルクフィッシュ養殖地だったサマル島
バセイ海面養殖場は、高潮でいけすが壊滅的な被害を受けた
そこで、日本の網のメーカーが協力し

台風や高潮の被害を受けないように
浮沈式養殖いけすを現地の人々が
生産、維持・管理出来るようにした



なじみ深い
大衆魚♡

カキと
ミルクフィッシュの
混合養殖

at
タナウアン町

QIPS2

サンタクルーズ村は養殖のカキの産地
水質浄化作用のあるカキとミルクフィッシュの混合養殖を導入・支援
漁民が協力してカキ養殖施設とミルクフィッシュ養殖施設を設置した

カキ養殖施設

25基

ミルクフィッシュ

42基設置

☆東松島市も追って協力に参加!



平林 淳利

JICA 国際協力専門員



この後のストーリーを
紹介していきます
2014年から2017年まで
月に1、2回は現地に足を
運びました



復旧・復興を進めるには
被災者の声を反映させた
計画づくりが
カギになりますね



計画づくりにまず
大事なのは「正確な地図」



災害の多い日本は
ハザードマップ作りの
実績と技術を持っています

ある日…地元の男性が
被災時のことを話し出した

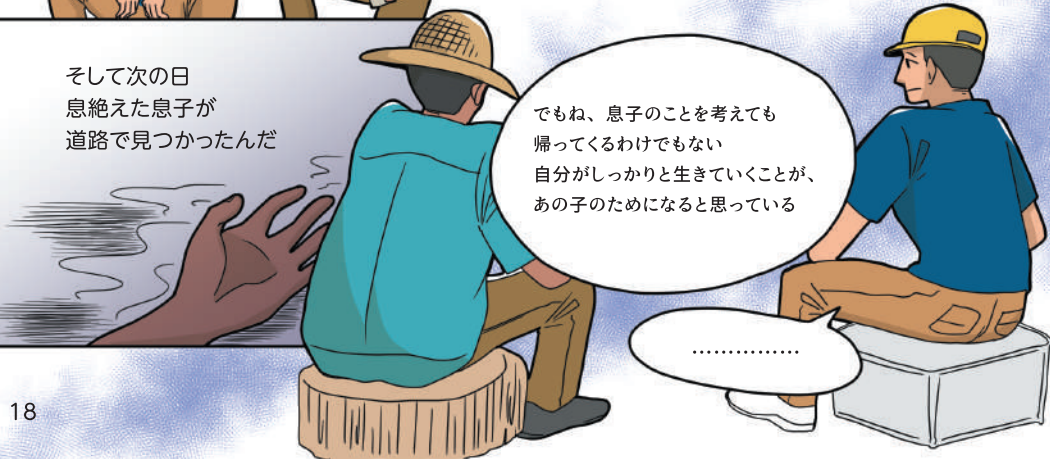


高波で流されそうになる息子を
片手で必死に掴み、死に物狂いで
泳いだんだ

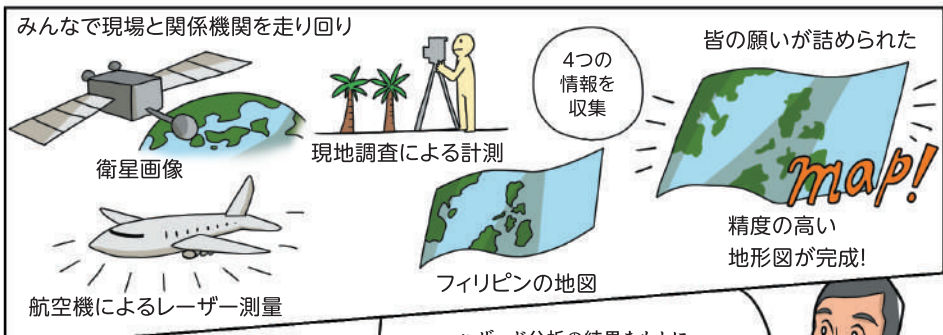
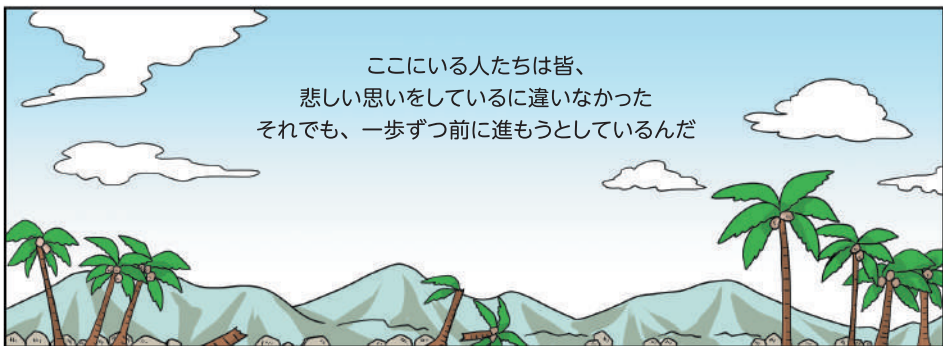
でも…その時…
流木が私の腕に当たって、
息子の手を放してしまった…



そして次の日
息絶えた息子が
道路で見つかったんだ



でもね、息子のことを考えても
帰ってくるわけでもない
自分がしっかりと生きていくことが、
あの子のためになると思っている



ハザードマップ分析作業も
進んでいた



藤堂正樹さん
株パシフィックコンサルタンツ

ハザード分析は
災害対策を検討する上で
不可欠な情報です

ハザード分析の結果をもとに
ハザードマップを作成して、
復旧・復興計画のための
重要な情報を関係者に提供する



こうして藤堂は
200カ所以上で
調査を行った

高潮被災者に聞き取りし
それをもとに
高潮痕跡調査を行います

フィリピン政府関係者や被災地でも高潮ハザードマップについて説明して回り
その活用について理解してもらえた

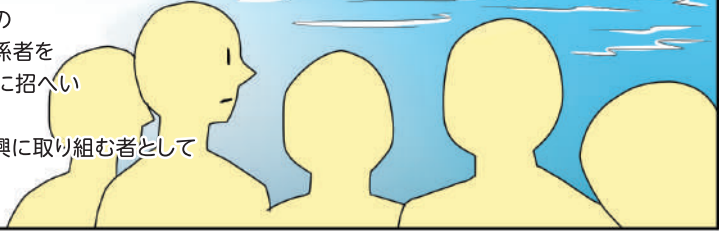
その後も、高潮シミュレーションの動画や、洪水、
津波ハザードマップも作成し引き渡した
台風ヨランダ来襲から1年後、ハザードマップの重要性を
実感する大型台風が再びこの地に接近する



プロジェクト開始から1年近く経過した頃…

JICAは、フィリピンの
台風ヨランダ復興関係者を
宮城県東松島市などに招べい

参加者からは同じ復興に取り組む者として
真剣な質問が続いた



東松島市は、
政府の環境未来都市に
選定されていた



環境

社会

経済

『3つ』の価値を創造すること

「誰もが暮らしたいまち」
「誰もが活力あるまち」の実現を目指す
先駆的プロジェクトに取り組む
都市・地域のこと

自治体や市民と
意見交換をする機会を
設けた

フィリピン側参加者

コミュニティを巻き込んだ
復興計画、防災・減災の
取り組みは非常に重要と
分かりました

今後フィリピンでも
災害リスク軽減のための
自治体運営のあり方に
係る研修を行う予定です

「環境未来都市」構想推進国際フォーラム

研修の最終日 at 東松島市

みんな集まることが『始まり』、
共に過ごすことが『前進』

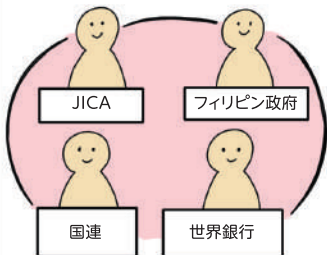
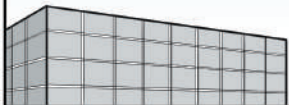
共に活動することが
『成功』だと決意しました!

フィリピン側参加者



この言葉に、会場は一つになった

マニラでは
2014年11月
JICAの提案で
台風ヨランダ上陸1周年の
復興政策セミナーが
開催された



国連や世界銀行などにも
参画を呼びかけ
この機会を活用して改めて
今後の支援について議論

副大統領が当日登場
そして…

シンソン大臣から
嬉しい発表があります！

復興政策セミナー

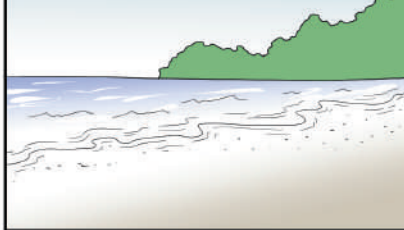
アキノ大統領が、タクロバン市、パロ町、
タナウン町の高潮被害地において
高潮から町を護る構造物対策の
工事実施を決断しました！

フィリピン政府の事業として
日本が必要性をうたっている
防災・減災への事前投資をします



『台風ルビー』の来襲

ヨランダによる甚大な被害から
1年が経過した2014年12月



ヨランダ並みに
発達した大型台風
ルビーが接近中!

台風ヨランダの
災害から1年も
たっていないのに!?

どうになってしまうの!?

ヨランダの経験を最大限に生かさないと
まず台風の予想経路にいる
青年海外協力隊を安全な地域に避難!

マニラ



山本さん
どうしますか?

次の災害に備えて、
これまでフィリピン関係者と
一生懸命取り組んできました
私たちはここに残ります!

レイテ



山本敦彦さん

㈱オリエンタルコンサルタンツグローバル

台風ルビーの被害状況

被災者数：2,915,262人、避難者：868,624人
被災家屋数：47,803棟、死者：19人、負傷者数：916人

プロジェクト対象地域は
死者、重軽傷者ともにゼロ

ハザードマップ上に避難所を特定した上で
公開し、避難対象者のリスト化も進めた
これにより大きなパニックもなく避難を始められ
住民は迅速に避難した

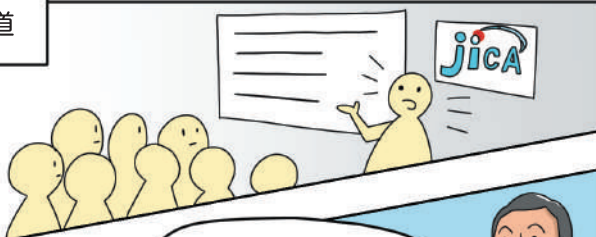


被災経験の風化を防ぎ、災害に備える
重要なポイントを認識する機会となった

プロジェクトチームは
災害に強いまちづくりに向け
各自治体への
働きかけを再び開始した

Build Back Better への道

2015年3月、JICAは「Build Back Better への道」と題したプロジェクトフォーラムをタクロバン市とマニラでそれぞれ開催



台風ルビーの際の避難ではどんな展開が？

平林

避難所の強度に問題があって教会や個人宅などに避難者を受け入れてもらったり洞窟へ避難したケースも

山本

受け入れを拒否する指定避難所の学校があったそうです

現地スタッフ

避難所の強度確認、防災拠点として機能する避難所の確保が急務ですね

避難所の特定と、避難者リストの作成も速やかに進めない

指定された避難所の避難者を世帯ごとにリスト化しては？

東松島市で勉強した「世帯ごとの避難マップ」はとてわかりやすかった

なるほど!!

それから避難所までの移動手段が全然足りなかった

きめ細かい避難手段とルート確認が重要課題ですね！

事前に避難所ごとの運営リーダーを決めておくのもいいですね

3月5日

マニラで実施されたフォーラム

タクロバン市では...

タクロバン市では...

壇上上がった防災担当官のベルナガス

これまで自分たちが必死になって取り組んできた活動を振り返り、思わず涙が止まらなくなった
それくらい過酷な日々だった



ベルナダスらは
避難計画づくりを本格化させた

ID

各自治体が、
安全な避難所を特定して
住民に周知するのが急務ですね

タクロバン市では
住民のIDカードを作成し
世帯ごとに避難所を指定する
仕組みを導入します



高潮ハザードマップを参考に
より安全な地域で避難所候補の
特定を進めよう

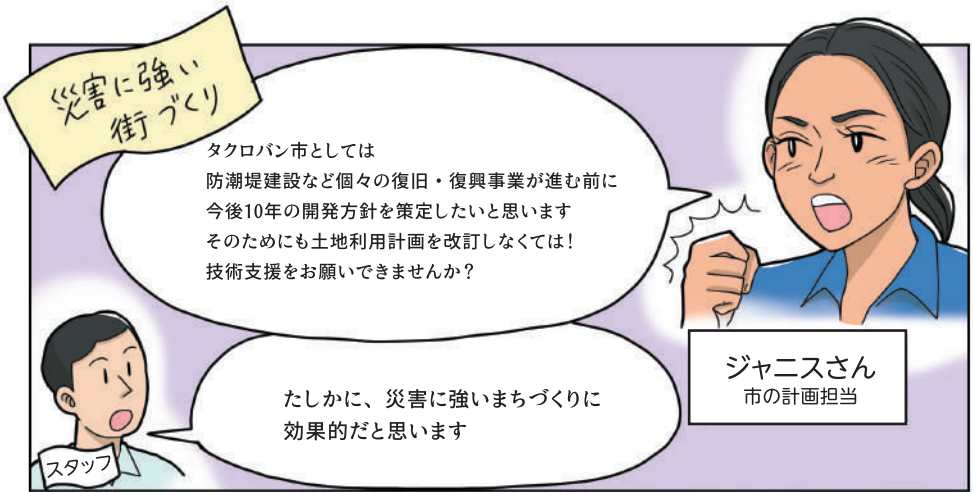
スタッフ

調査の結果を見ると、
台風ヨランダの被害を受けた
建物の改修の多くは、外見上の
修復をただけのようです

構造的に
補強されたものが
少ないんですね

スタッフ

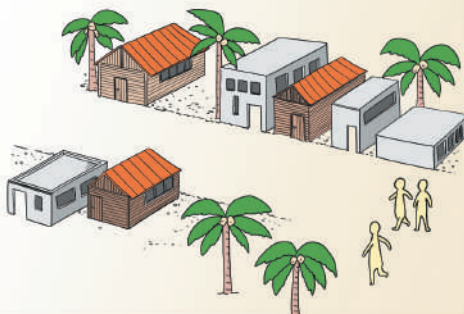




タクロバン市からの要請を受け、土地利用計画改訂も支援
特に重視したのは災害に強いまちづくり
プロジェクトチームが助言してきた視点と同じだった



こうして、土地利用計画改訂に
積極的ではなかった人達の
心をも動かし始め
災害に強い街づくりが本格的に進んだ



ワークショップでは現状を
参加型で学びあった

★WORKSHOP★



ジャニスとドロレスの
二人三脚から

全員全脚

自治体と住民代表者が
肩を組んで取り組む
ようになった

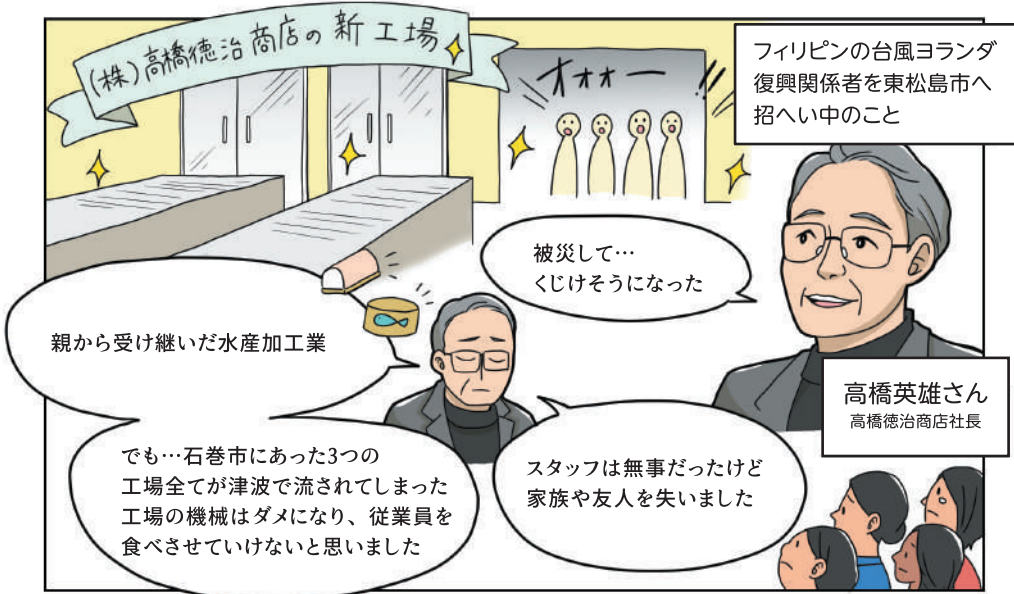


ジャニスなどの計画官は
地図を読めなかったから
注意すべき点を地図を見せながら
教えたんだよね

するとジャニスは
自ら現場に行って確かめていた
素晴らしい努力家だったよ



千田雅明さん
(株)パシフィックコンサルタンツ



壊滅的な工場を見て、受け入れ難い現実と孤独と明日が見えない日々に復興をあきらめそうになった



私が途方に暮れていると



世界各地からボランティアの人達が駆けつけてくれたんです

もう一度工場を立て直しましょう!



その人たちは、工場のがれきや土砂をどかし機械の清掃をやり始めてくれ...その思いに心動かされもう一度立ち上がろう!と決意しました被災から2年後、東松島市に工場を新設し再開しました

私は台風ヨランダで妻を亡くし
ショックは相当なものでした

でも高橋社長の話を聞いて
前を向いて進むことの
大切さを学びました

高橋徳治商店の訪問を終え
私たちはバスに乗り込みホテルへ向かった

私も台風で
親族を亡くしました

本当につらかった
でも今日の話聞いて
気持ちの持ち方の
大切さを学びました

平林

～後の集まりにて～

私たちの復興の道のりも決して
平坦ではないと思います
フィリピンと日本では環境や条件は違いますが
決してあきらめず、東松島市での学びを忘れずに
復興に取り組んでいきます

招へい参加者代表

高橋英雄さん

学校で、子どもたちに国際貢献や国際協力の
話をする機会があります
JICAなどの国際協力を通じて多くの外国の人たちが
東松島市に来ることを話すと
子どもたちは誇りに思ってくれます

被災時、国内外から助けていただいた
私たちにとって、ご恩を返すことは当たり前のことです

2015年

フィリピン政府が発表した、かさ上げ道路・防波堤建設の基本計画づくりに関して、フィリピン公共事業道路省からJICAに支援要請が入る

建設費用はフィリピン政府が手当てしかし、政府にとってこの規模・タイプの建設は初めてで、基本計画の策定や関係者に対する技術協力がJICAに求められたのだ

タクロバン市が改訂した土地利用計画は住民との公聴会を経て、台風ヨランダ被災地域の中で最も早く市議会で承認された

台風ルビーの学びとデータをもとに避難地図は更新された



避難者人数に比べて避難所の収容人数が不足していることなども改めて確認できた



ベルナダスさん
防災担当官



住民はどこからどこに逃げるか…



学校、教会、ホテルなどと避難所協定を結び避難者に対してほぼ十分な避難所を確保した

避難方法を市が示し指導と調整をする

市と住民の役割分担を明確にする

住民はそれに基づき具体的な避難計画を考え、作る



災害から3年が過ぎた
2017年1月

プロジェクトがついに閉幕のときを迎え、
終了フォーラムが開催された

The Roadmap to Sustainable Recovery

幕引きを飾る
フォーラムのタイトルは
『持続可能な復興へのロードマップ』

復興への道のりは決して平坦
ではなく険しく長い時間が必要だ
日本とフィリピンの絆、共に学んだ日々は
台風ヨランダからの復興に取り組む
人々にとっての、そして私達にとっての
かけがえのない財産となった

(より良い復興)
Build Back Better
プロジェクトが静かに幕を閉じた...

被災した教室の黒板に書かれていたあ
の言葉は本当だった

ROOFLESS
HOMELESS
BUT NOT
HOPELESS

屋根もない
家もない
でも希望はある

そう、明るいフィリピン人達の瞳の奥には
いつも希望の光があった
そしてみんなの希望が復興への道を照らしていただ



独立行政法人国際協力機構（JICA）は
日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として
開発途上国への国際協力を行っています
JICAは、「信頼で世界をつなぐ」をビジョンとして
人々が明るい未来を信じ多様な可能性を追求できる
自由で平和かつ豊かな世界を希求し
パートナーと手を携えて、信頼で世界をつなぎます

台風ヨランダからの復旧・復興支援

2013年11月、100年に一度と言われる超大型台風がフィリピン中部のサマール島やレイテ島などが位置する東ビサヤ地方に上陸しました。記録的な規模の高潮と強風により、死者・行方不明者は約8,000人、被災者数は1,600万人以上。レイテ湾の奥に位置するタクロバン市の市街地は壊滅状態となり、東ビサヤ地域の主要産業だったココナツの木の約65%が倒壊するなど、人命、建築物、ライフライン、産業に至るまで、甚大な被害をもたらしました。

この台風ヨランダの被災地に対して緊急援助と、それに引き続いて実施された復旧・復興を後押しする無償資金協力や技術協力プロジェクトを中心に、日本は様々な取り組みを通じて、フィリピンを支援しています。



詳しくはこちらの動画(英語)をご覧ください



台風ヨランダ災害緊急復旧復興支援プロジェクト

ハザードマップの制作や
自治体の土地利用計画の
策定支援

病院や庁舎などの
建設を含む、質の高い
無償資金協力の
計画づくり



プロジェクトチーム

災害に強い公共施設の
早期再建とそれを通じた技術訓練
被災者の生計回復（QIPS）
の計画・実施

東日本大震災からの
復興に取り組む
東松島市との連携

より良い復興（Build Back Better）

「台風ヨランダ災害緊急復旧復興支援プロジェクト」は、ただ単に災害前と同じ状態に戻すのではなく、災害に強いより良い復興を目指す「Build Back Better」という考え方に基づき、現地のニーズを拾いながら、フィリピンの人々とともに実施しました。被災したインフラの普及や機材の調達を目的とした無償資金協力の計画づくり、高潮などに対する正確なハザードマップの作成、それに基づく土地利用計画や避難計画の作成、養殖といった住民の生計向上、人材育成など、その内容は多岐にわたります。

そして、「Build Back Better」の考え方はフィリピン側にも徐々に浸透し、中長期的な支援ニーズを見据えたJICAの取り組みは復興の一助となりました。災害は、より良い社会を構築するチャンス。そう信じて、緊急援助からシームレスな（継ぎ目のない）復旧・復興支援まで、数多くの関係者が携わり、支援を実施しました。



台風ヨランダ災害緊急復旧復興支援プロジェクト



協議・調整



フィリピン中央政府

復興担当大統領補佐官
公共事業道路省 (DPWH)
etc.

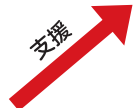
委託



プロジェクトチーム

台風ヨランダ緊急復旧・復興プロジェクト

支援



支援



フィリピン地方政府

- ・タクロバン市
- ・パロ町
- ・タナワン町
- etc.

調整・監督



企画制作・発行 : 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

監 修 : 見宮美早 / 平林淳利

漫 画 : びるじろうず

脚本・デザイン : ROOM810

発行年月日 : 2023年3月

プロジェクトストーリー
当冊子はこちら



この作品は事実に基づいて執筆された書籍『屋根もない、家もない、でも、希望を胸に フィリピン巨大台風ヨランダからの復興』を元に、再編集し制作された漫画です。